

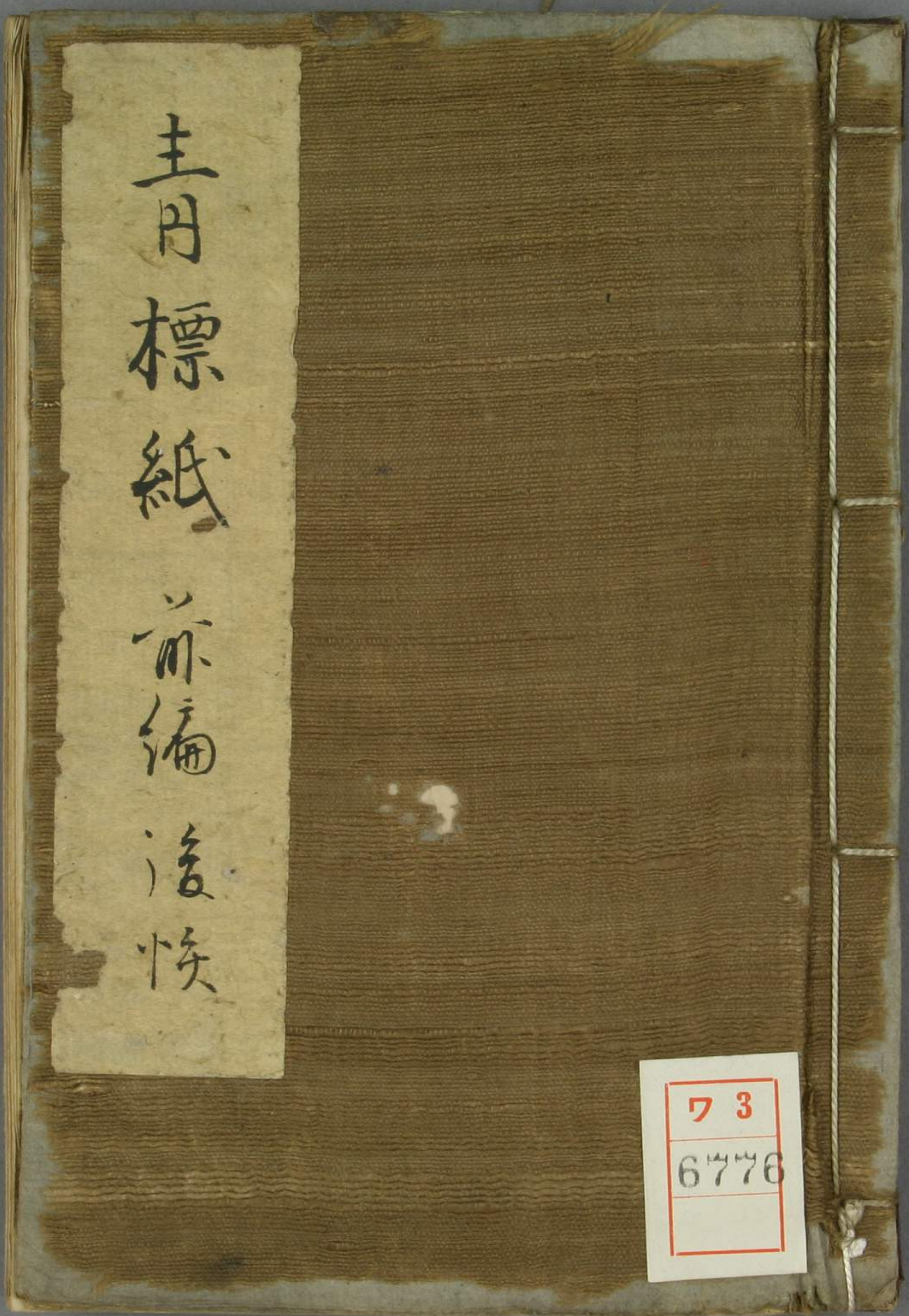
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



73
6776

9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9
20 1 2 3 4 5 6 7 8 9
JAPAN

門 73
號 6776
卷

音標 帛書目



一 武家諸法度附勒向了合令條
一 屋鋪向諸的例附為番所畧圖
一 武器及行列具的例



一 衣服制度的例附裝束君用畧系
一 御成先諸的例
一 取方的例

聖先 上賢 水渌 大進也 匪多也 如 内侍 遠的水馬 騎射 活施 ず的 宗馬 聖也 川の石留場

一時刻可方々西山一以令天文方一注札期令夕夜曉

一沃西九内大被刻限改

一内國訓通外中内條目兼武具活施女人宗馬改

武家修作 左 所 初 向 了 令 令 宗

一文部一道一候一人偏一の一了の風俗一宗事

一國の事申一の智名一の心力一の志の忠告一の事

一軍役の去馬路整備一の役一交判一儲蓄一の事

一系勅文一の事一の定期一の進一の後者一の事

一の分限一の事一の事 一の事 一の事 一の事

一の事 一の事 一の事 一の事

一都築市一の城郭一の修繕一の事一の修繕一の事

一の事一の地一石一土一上氣一の事一の事 矢橋門 堀の

制限一の事一の事

附道 沃 堀 修 人 事 事 事 不及 之 形 圓 而 津 馬 未 付 還 一 候 事 事 事 事 事 事 事

すけし人各あやして保定と申さるる
物成りうあつては保定と申さるる
一越境し遠く往て追捕せらるる
物しる事海より入る事知れり
と云ふ事ありたり

一越境し遠く往て追捕せらるる
物しる事海より入る事知れり
と云ふ事ありたり
凡件しる事
若くは物せしめらるる

若くは人のいふ事
と云ふ事ありたり

一越境し遠く往て追捕せらるる
物しる事海より入る事知れり
と云ふ事ありたり
若くは物せしめらるる

一越境し遠く往て追捕せらるる
物しる事海より入る事知れり
と云ふ事ありたり
若くは物せしめらるる

也

所を待て利を得りて、白銀を位りて白
少油と申す。此の油は、
其の味は、
しるは、
一、
息城の登位後、
僧を制する。

一、
新お約、
あつて、

不説を也て、
所、
一、
子、
十、
ら、
者、
し、
美、

瘡痛を治すに... 上を兼て... 西の...
... 無上... 切... あり...
... 終り... あり... 終り... 例... 大...
... あり... あり... あり...
寛政元酉年之月右の... あり...

... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...

... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...
... あり... あり... あり...

東照宮... あり... あり... あり...

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, consisting of approximately 12 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, consisting of approximately 12 lines of text.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一 文政六年十月十日 西九の儀以依止依りて日

一二十百様 此の如く 一七千様 十の如く

句後下を生ず様 打ち寄り通ち候なりしり然るも
少くも之に付しり 傍減つてしり 又保する年日
何れを後を候し候なり

一五百様 此の如く 一四五百様 此の如く 一三三三様 此の如く

一三三三様 此の如く 一三三三様 此の如く 一三三三様 此の如く

句後於る所を候し候なり 又保する年日
何れを後を候し候なり 又保する年日
何れを後を候し候なり

又保する年日 朝の音を新紙を巻くり 其の
様数を解し候なり

一五百様 此の如く 一三三三様 此の如く 一三三三様 此の如く
一三三三様 此の如く 一三三三様 此の如く 一三三三様 此の如く

右の如くの中を候し候なり 又保する年日
何れを後を候し候なり

一五百様 此の如く 一三三三様 此の如く 一三三三様 此の如く
一三三三様 此の如く 一三三三様 此の如く 一三三三様 此の如く

一五百様 此の如く 一三三三様 此の如く 一三三三様 此の如く

口ある通 小善信方は役 口ある人 口天字ある 口善信は
口宝花ある 口善信は役 口後目付 口加酒役 口火ある
口信 口信ある 口善信人 口進めある上者 口極少ある
口右親役 口目見役 口右方 口後押 口紙折ある
口是州氏 口何ある 口少ある 口善信は 口加酒ある

小善信方は役
口善信は役 口下百俵の上りある
口善信は役 口善信は役 口善信は役
口善信は役 口善信は役 口善信は役

一 信目心 口善信は役 口善信は役 口善信は役
口善信は役 口善信は役 口善信は役 口善信は役
口善信は役 口善信は役 口善信は役 口善信は役
口善信は役 口善信は役 口善信は役 口善信は役

口善信は役 口善信は役 口善信は役 口善信は役
口善信は役 口善信は役 口善信は役 口善信は役
口善信は役 口善信は役 口善信は役 口善信は役
口善信は役 口善信は役 口善信は役 口善信は役

○寛政十三年三月十日丹後守藤田守

一万石の下高紙令日勤し者より日光江守信
し藤田守信よりりるおんねらるうし

一江守信よりりるおんねらるうし

寛政十二申年二月廿日江守信よりりるおんねらるうし

日光江守信よりりるおんねらるうし
らあはれりる

一川守新し申 川守新し申 文化六十年三月

同日江守信よりりるおんねらるうし

らあはれりる

一國持大名共拾万石以上よりりるおんねらるうし

而し西海の西川守新し申 石共むりるおんねらるうし

共外十万石以下よりりるおんねらるうし

斤石よりりるおんねらるうし

規よりりるおんねらるうし

連係よりりるおんねらるうし

よりりるおんねらるうし

よりりるおんねらるうし

此の通り有月をあらはせしむるに
たゞ通すべし

一 婿の御方有御事 寛政二戊午六月別令
之供々々有御事 御旗を御事
口々有御事 御旗を御事
而此の御事 御旗を御事
又此の御事 御旗を御事

一 女子程紙紋竹有御事 寛政二戊
午六月別令有御事 御旗を御事
御旗を御事 御旗を御事

紋竹有御事 御旗を御事 御旗を御事

一 婿の御道具 寛政二戊午六月別令
御旗を御事 御旗を御事
御旗を御事 御旗を御事
御旗を御事 御旗を御事
御旗を御事 御旗を御事

一 御旗を御事 御旗を御事
寛政二戊午六月別令

相承を後ちあふも四月廿、同令西德二年七月十日

船しあり一刃二天の字九分その船は一大根天一人の字上

一大潭大角潭寸天の字四本小根一年箱一黄漆箱

右の世にありあふ界 一大多てつ付 右惣盤し方、右あり

西物ありとも二れは流し又なるもて物あり

一からりしつりし方、右あり 一大もつひ右の

高所信、前也、一、物、形、さ、り、れ、は、ひ、ひ、類、付、し、る、

一、大、き、り、さ、げ、者、い、ま、あ、り、し、る、あ、の、も、

一、大、も、つ、付、大、も、類、年、り、し、る、を、盤、せ、し、る、

り、し、る、は、眼、の、し、る、あ、り、し、る、し、る、し、る、し、る、し、る、

中し、あり、る

右の道、西にあり、る、は、い、ふ、は、信、方、し、る、一、も、

右の道、西にあり、る、は、い、ふ、は、信、方、し、る、一、も、

右の道、西にあり、る、は、い、ふ、は、信、方、し、る、一、も、

右の道、西にあり、る、は、い、ふ、は、信、方、し、る、一、も、

右の道、西にあり、る、は、い、ふ、は、信、方、し、る、一、も、

右の道、西にあり、る、は、い、ふ、は、信、方、し、る、一、も、

右の道、西にあり、る、は、い、ふ、は、信、方、し、る、一、も、

中し

寛文十年十月廿日 船中 一刃二天の字九分 一大潭 大角潭

一 後修院あり一村あり
一 額より上あり
ハ廿九

一 後修院あり一村あり
一 額より上あり
ハ廿九

一 後修院あり一村あり
一 額より上あり
ハ廿九

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter, possibly 'Bismillah' or a similar invocation. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. It features several lines of text, with a prominent circular symbol or initial at the beginning of one section. The text is written in a consistent cursive style, typical of historical Arabic manuscripts. The page ends with a decorative flourish or a small symbol.

若用能可如海 亦如海 所書而文而似正坂竹書形
其五所記 若用能可如海 亦如海

一 門下之類者 以坂附者用之 事 文化十二年 亥前
大月竹中川 家學也 下 月竹 去坂之矣 同令 家
向之 月日 足 侍 務 之 類 有 其 父 月 日 之
以上 勅 役 申 渡 之 似 之 蓋 以 坂 竹 竹 類 有 之 下 之 類 者
類 中 向 渡 者 用 之 又 類 者 亦 有 之 而 渡 者 用 之 亦
之 其 口 記 已 類 者 亦 有 之 計 者 用 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
所 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之

用之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之

亦 有 之 亦 有 之

一 門下之類者 以坂附者用之 事 文化十二年 亥前
大月竹中川 家學也 下 月竹 去坂之矣 同令 家
向之 月日 足 侍 務 之 類 有 其 父 月 日 之
以上 勅 役 申 渡 之 似 之 蓋 以 坂 竹 竹 類 有 之 下 之 類 者
類 中 向 渡 者 用 之 又 類 者 亦 有 之 而 渡 者 用 之 亦
之 其 口 記 已 類 者 亦 有 之 計 者 用 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
所 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之

すわりのうへに書かれた紙に、
一、
十日

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百

一 昔下帷子深多事。細川普門守、昔下帷子、
帷子の深き紋布、大目付、附、浅黄、
と、色、紋、所、白、く、深、く、あ、う、き、ら、せ、ら、る、
と、い、ふ、路、の、控、抄、い、

一 西條藩事。おれ、是、利、家、一、時、道、持、い、い、
り、り、丈、短、ゆ、り、り、眼、汁、と、若、き、世、と、い、ふ、お、れ、い、い、
す、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、
若、き、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、
お、れ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
後、持、い、

一 西條藩事。おれ、是、利、家、一、時、道、持、い、い、
り、り、丈、短、ゆ、り、り、眼、汁、と、若、き、世、と、い、ふ、お、れ、い、い、
す、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、
若、き、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、
お、れ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
後、持、い、
一 西條藩事。おれ、是、利、家、一、時、道、持、い、い、
り、り、丈、短、ゆ、り、り、眼、汁、と、若、き、世、と、い、ふ、お、れ、い、い、
す、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、
若、き、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、
お、れ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
後、持、い、
一 西條藩事。おれ、是、利、家、一、時、道、持、い、い、
り、り、丈、短、ゆ、り、り、眼、汁、と、若、き、世、と、い、ふ、お、れ、い、い、
す、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、
若、き、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、
お、れ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
後、持、い、

白... 深... 略...

一... 同... 寛政土...

本... 同... 文...

と... 同... 文...

一... 同... 文...

一... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

と... 同... 文...

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. The ink is dark and the paper shows some signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. This page contains approximately 12 lines of text, continuing the style of the previous page. The script is highly decorative and characteristic of the Maghrebi or Andalusian styles. The lines are well-spaced, and the overall appearance is that of a formal or literary document.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines on the left page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines on the right page.

とて思ふに然し言へ下別とて明かしく思ふ

一時割て百方向へ事。文化の石と年月とを平極果

中世の捕あまの河合と沙野。別作とて是とを以

て方角の面とて思ふ。一里の曉朝を以

てお合とて思ふ。事細沙也知。別とて思ふ。乃通

今。候。子。丑。亥。今。明。水。辰。今。辰。己。午。今。候。未。申

今。候。未。申。未。申。通。下。未。辰。未。辰。乃。候。未。申

今。候。未。申。未。申。通。下。未。辰。未。辰。乃。候。未。申

今。候。未。申。未。申。通。下。未。辰。未。辰。乃。候。未。申

今。候。未。申。未。申。通。下。未。辰。未。辰。乃。候。未。申

今。候。未。申。未。申。通。下。未。辰。未。辰。乃。候。未。申

今。候。未。申。未。申。通。下。未。辰。未。辰。乃。候。未。申

今。候。未。申。未。申。通。下。未。辰。未。辰。乃。候。未。申

今。候。未。申。未。申。通。下。未。辰。未。辰。乃。候。未。申

今。候。未。申。未。申。通。下。未。辰。未。辰。乃。候。未。申

今。候。未。申。未。申。通。下。未。辰。未。辰。乃。候。未。申

格へ中へ積るが門法方々の東方は方
の道あり物とてその中方形あり元は職代流を著後
是年思ふ元意 職正とて高きも右表とて所わく者
之より又その通るは又後なる掛合なり
のより又其後より一より依りてなる
なりなり 西九のり也 山の舎人

諸の円所通りの例

一 法圓所通りの事 貞享三年の法圓

の例

一 法圓所の通る事 貞享三年の法圓
の例

一 法圓所の通る事 貞享三年の法圓
の例

何れ執法也

貞享三年の法圓

奉行

一 寛政三年の法圓 奉行の部は捕頭より法圓
の例

以上法は圓洲から先通る事也先記すおん
り事 ○ 圓洲通る事 東海道
本宮路は圓洲武井通りし是今切は圓洲
以し以す

一 寺子入日心之氣石代 勅し後之紀勅事奉
りありあり之入寺子通り事 一 寺子法施
ラテ改よりい名ありあり之紀勅事 但し
事

一 圓東西國海海 和方也 抄りし事 一 寺
子入寺子通りし事 一 寺子法施

此の事人日心之氣石代 抄りし事

一 寺子法施 一 寺子通りし事

一 寺子法施 一 寺子通りし事

一 寺子法施 一 寺子通りし事

一 寺子法施 一 寺子通りし事

一 寺子法施 一 寺子通りし事

一 寺子法施 一 寺子通りし事

一 寺子法施 一 寺子通りし事

一 寺子法施 一 寺子通りし事

一 寺子法施 一 寺子通りし事

ちりり 一 浮燈巻 ちりり 一 玉葉 ちりり 一 夕し巻

ちりり 一 鼓 ちりり 一 燈 ちりり 一 草ら巻

ちりり 一 浮燈巻 ちりり 一 玉葉 ちりり 一 夕し巻

一 浮燈巻 ちりり 一 玉葉 ちりり 一 夕し巻

ちりり 一 鼓

一 浮燈巻 ちりり 一 玉葉 ちりり 一 夕し巻

一 浮燈巻 ちりり 一 玉葉 ちりり 一 夕し巻

一 浮燈巻 ちりり 一 玉葉 ちりり 一 夕し巻

あし ちりり 一 鼓 ちりり 一 燈 ちりり 一 草ら巻

一 少女 ちりり 一 鼓 ちりり 一 燈 ちりり 一 草ら巻

ちりり 一 鼓 ちりり 一 燈 ちりり 一 草ら巻

一 鼓 ちりり 一 燈 ちりり 一 草ら巻

ちりり 一 鼓 ちりり 一 燈 ちりり 一 草ら巻

ちりり 一 鼓 ちりり 一 燈 ちりり 一 草ら巻

ちりり 一 鼓 ちりり 一 燈 ちりり 一 草ら巻

多部不辨るる事...
白ゆき...
たらう...
あはれ

青標身 次

- 青標帛後編書目
- 一 武家諸法度
 - 一 清書流勒方掟書
 - 一 二条大坂在番掟書并年割
 - 一 清軍令清軍役之次第
 - 一 大の上覽并清射初百午の之事
 - 一 清鷹鳥未歴之夏
 - 一 非常心得之夏并掟書

一 淨定書

忍 画 屋 藏 版

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

武家法は在りて白紙に

一文を以て之を飾りて之を以て

一筆の勤を以て之を以て之を以て

一筆の勤を以て之を以て之を以て

一筆の勤を以て之を以て之を以て

一筆の勤を以て之を以て之を以て

一筆の勤を以て之を以て之を以て

一筆の勤を以て之を以て之を以て

一筆の勤を以て之を以て之を以て

よきものゝ御まゐりなり 不承に御持しつゝ御まゐり
るも林下りしりしは御持方之御まゐり御まゐり
御持しりしりしは御まゐり御まゐり御まゐり
御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり
御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり

殿中 三郎

一 御持の御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり
○ 御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり

一 御持の御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり
御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり
御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり
御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり

御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり

一 御持の御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり

御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり

御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり

御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり

御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり

御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり

御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり御まゐり

Handwritten text in a cursive script, likely a list or series of entries. The text is written in a dark ink on aged paper. There are several lines of text, some starting with a vertical line. A small red triangle is visible at the top of the page.

在善法控理

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. There are several lines of text, some starting with a vertical line. A small red circle is visible at the top of the page.

ふらりし庭の如く流るる事なきに
あらず

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

了りし事

一 船に取らるる道中行中へいりて
一 是れは昔流中より文治寺の船
一 今流之系とて道中へは昔流下りて
一 今流之系とて道中へは昔流下りて
一 今流之系とて道中へは昔流下りて
一 今流之系とて道中へは昔流下りて

一 今流之系とて道中へは昔流下りて
一 今流之系とて道中へは昔流下りて
一 今流之系とて道中へは昔流下りて
一 今流之系とて道中へは昔流下りて
一 今流之系とて道中へは昔流下りて

一 今流之系とて道中へは昔流下りて
一 今流之系とて道中へは昔流下りて
一 今流之系とて道中へは昔流下りて
一 今流之系とて道中へは昔流下りて
一 今流之系とて道中へは昔流下りて

一 既而、中野丸、十一月廿七日あり、大坂道より、
中野丸、十八日、大坂通、東へ、行城、入、事、右、定、
り、作、入、事、役、人、名、を、下、下、し、先、手、の、所、會、事、一、廿、七、日、
行城、入、人、を、せ、行城、入、先、二、役、人、名、を、し、役、人、名、
の、役、人、下、下、が、あ、法、論、し、し、後、役、人、名、一、十九、日、下、
下、下、一、事、

一 十一月、京都と、り、お、上、り、し、積、り、大、陽、を、但、り、の、字、
十、七、日、豊、前、を、但、十、七、日、廿、七、日、無、し、京、大、坂、通、り、の、事、
大、陽、を、但、り、十一月、豊、前、を、但、り、十八、日、京、大、坂、通、り、の、事、
但、り、の、事、し、行、来、り、の、事、を、移、り、一、事、

十一月、行城、入、事、を、下、下、し、期、大、陽、を、但、り、
十一月、相、大、陽、を、但、り、十九、日、あり、相、豊、前、を、但、り、廿、七、日、
あり、相、大、陽、を、但、り、廿、七、日、あり、相、豊、前、を、但、り、廿、七、日、
大、陽、を、但、り、十一月、豊、前、を、但、り、十八、日、京、大、坂、通、り、の、事、
海、を、し、

大坂通、事、

大坂通、名、利、

り、

一 十一月、大坂、通、り、の、事、を、下、下、し、期、大、陽、を、但、り、
十一月、大坂、通、り、の、事、を、下、下、し、期、大、陽、を、但、り、

一 此供も別所申五世傳先考も石代法牛一宗にあり
 一 二条堂より二月十日の休之日大廿九の先考廿九の出之三月十日迄
 嘗ていふ也之

一 二条表交代り四月十日の休之日

一 月より休之日十日迄

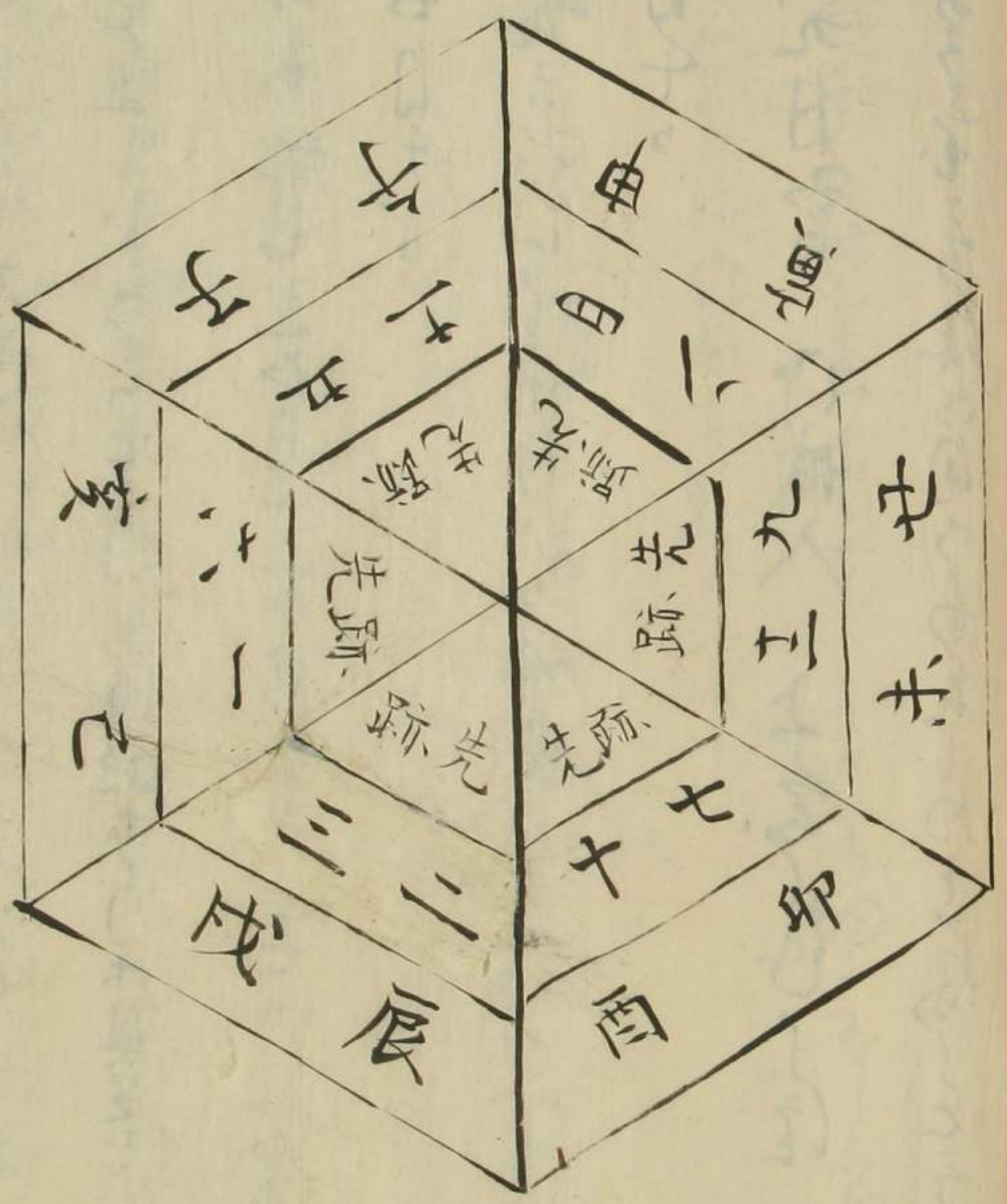
一 月名刺し名之日大廿六の先廿六の跡廿六の出之

一 月下りし節之日大廿九の先廿九の跡廿九の出之
 先下り相刺り者同日也之

大坂

在番

年割



一 砂換ちり先給る別り也りし節也りし節類

七之 他方亦依一兩日増減ありしは國月めし乎いそり増勅

一先類々分七立しはつらきなりは後於ちり由具是をり
如先録中

一^如金法而京都也之月十日歸京日七日に合方
令死あり五日計り

一後^如金法而京都也之月十日歸京日七日に合方
令死あり五日計り

一二月廿九日 城入 上高 止し

一^如金法而京都也之月十日歸京日七日に合方
令死あり五日計り

あきつ年

一勅類下向する不抄書を國志しは送物ありしは
つらむえり人若原口目可執り申

一^如金法而京都也之月十日歸京日七日に合方
令死あり五日計り

一^如金法而京都也之月十日歸京日七日に合方
令死あり五日計り

一^如金法而京都也之月十日歸京日七日に合方
令死あり五日計り

一^如金法而京都也之月十日歸京日七日に合方
令死あり五日計り

一^如金法而京都也之月十日歸京日七日に合方
令死あり五日計り

一^如金法而京都也之月十日歸京日七日に合方
令死あり五日計り

一 大坂方合戦ありて、日廿二日、遂に日下なる

一 大坂方、其の勢を以て、共之を棄てて

一 日下代九日、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

文化九申年三月廿二日、日下城に入上りて、其の勢を以て

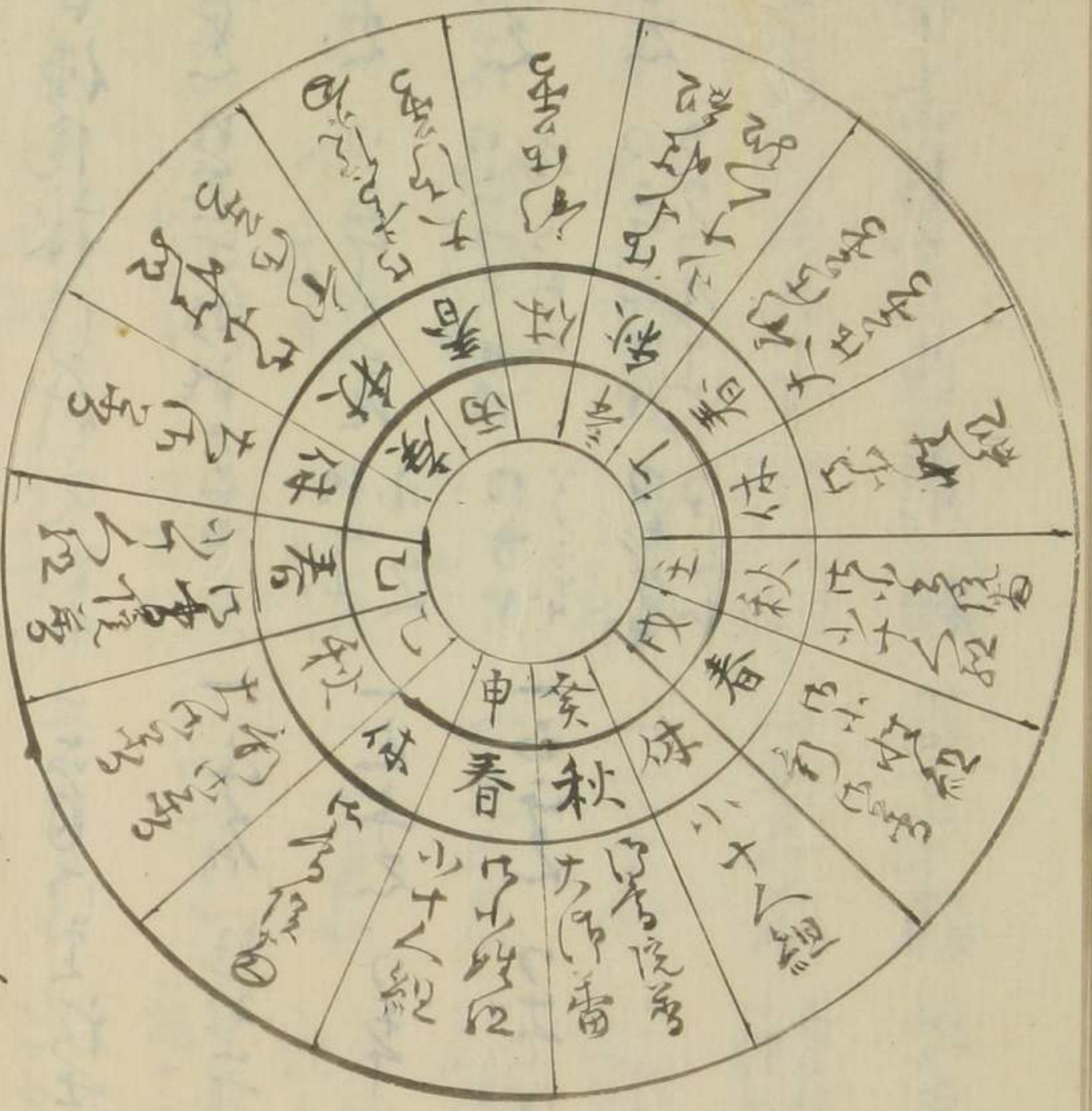
一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て

一 大坂方、其の勢を以て、日下城に入上りて、其の勢を以て



一大的 上... 大... 射...

西九龍山... 射... 上... 射... 射...
 姓名中... 射... 射... 射...
 不知... 射... 射... 射...
 大的 上... 射... 射...

- 石... 射... 射... 射...
- 布... 射... 射... 射...
- 永... 射... 射... 射...
- 坪... 射... 射... 射...
- 永... 射... 射... 射...
- 永... 射... 射... 射...
- 永... 射... 射... 射...
- 永... 射... 射... 射...

一 遠的 上迄〜 如い 喜保 十午の 成る 成

は 田の 遠的 上迄 成る 成る 成る 成る 成る

射 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

少 十人 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

一 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

一 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る 成る

T

右古例の字保之斗之日内是也。崔氏科頭、何有法
在元年婦子内奉者當へてし右何法於西側へ向
し目之 上意ありし此不請侯方於序、行目之出
科頭始

少飲之

汗本膳 少給 紹生善 少汁 挿入 少香和 表是法

少者大和 王世子 經母

二汁法 少味 九揚燒 法味 銜 少汁 細切 少橋口 抄録

三汁法 少味 地紙紙 挿入 少汁 茶内白法 少味 細切

少者大和 輔加白 少味和 少者大和 燒餅地

少者大和 羊人 修氏 少者大和

右例と白本具少てし

北常心得提書

一由由遠之也 抄中 少飲之 少味和 少者大和 少者大和
抄中 少味和 少者大和 少者大和 少者大和 少者大和
少者大和 少者大和 少者大和 少者大和 少者大和
少者大和 少者大和 少者大和 少者大和 少者大和
少者大和 少者大和 少者大和 少者大和 少者大和

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

一 國門中 國道 諸君 御座

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, consisting of approximately 10 lines of text.

一、文化之盛衰、其於社會之影響、固非淺鮮也。故欲求社會之進步、必先求文化之發達。而文化之發達、又非徒恃其物質之豐富而已、尤在於其精神之高尚。是以古之聖王、必先修其身、而後治其民。今之君子、亦必先正其心、而後事其親。此誠為立身處世之要道也。

夫文化之發達、其源有二。一曰、由內而外。即個人之修養、而推廣於社會。二曰、由外而內。即社會之進步、而影響於個人。此二者相輔相成、不可偏廢。蓋個人之修養、固不能離社會而獨立。而社會之進步、亦不能離個人之努力而實現。是以君子必先慎乎德、而後可以言教。而教之於民、亦必先由近而遠、由小及大。此誠為教化之次第也。

考らるゝ京の町をりり 百割 享保七年極

一 和泉河内松原 播磨 大坂町をり 但ちのり大坂町をり

右八ヶ国より多し 京都大坂町をり 支那通又と

修成 柳七ヶ寺社寺の目吾和割の町む双方共

右のり死し七ヶ寺の化、併せりて支那の町をり

了ん 支那の町をり 一 枝をり 一 割

一 江朝の七ヶ寺の町をり 上 江朝の町をり

支那の町をり 支那の町をり 支那の町をり

支那の町をり 支那の町をり 支那の町をり

支那の町をり 支那の町をり 支那の町をり

支那の町をり 支那の町をり 支那の町をり

支那の町をり 支那の町をり 支那の町をり

支那の町をり 支那の町をり 支那の町をり

支那の町をり 支那の町をり 支那の町をり

支那の町をり 支那の町をり 支那の町をり

支那の町をり 支那の町をり 支那の町をり

支那の町をり 支那の町をり 支那の町をり

繪巻の御公斗小繪巻仕りたる事
享保之四年

一繪巻仕りたる事
享保之四年

一繪巻仕りたる事
享保之四年

一繪巻仕りたる事
享保之四年

一繪巻仕りたる事
享保之四年

一繪巻仕りたる事
享保之四年

○寺社方御公斗御事

一寺社御公斗御事
享保之四年

一寺社御公斗御事
享保之四年

一寺社御公斗御事
享保之四年

一寺社御公斗御事
享保之四年

一寺社御公斗御事
享保之四年

一寺社御公斗御事
享保之四年

一寺社御公斗御事
享保之四年

一寺社御公斗御事
享保之四年

一寺社御公斗御事
享保之四年

一寺社御公斗御事
享保之四年

一 宗法親類 拘りいし事 新法し 或は止らる事
志事守 解ひし 如く けりし 少 秘 隠し 者 又 此 宗
俗人 入 交り 止ら ぬ 事 實 保 之 事 也

○ 旧 悪 口 仕 立 事

一 逆 罪 者 延 重 之 極 一 邪 團 者 人 々 殺 した 者 實 保 之 極

一 火 附 極 保 之 一 一 追 割 者 人 家 之 忠 入 盗 人 實 保 之 極

一 他 債 黨 人 家 押 せり 者 實 保 之 一 極 一 欺 けり 事

一 詐 言 者 詐 言 者 詐 言 者 詐 言 者 詐 言 者

一 詐 言 者 詐 言 者 詐 言 者 詐 言 者 詐 言 者

右 宗 親 類 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事
以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事

○ 打 方 々 々 事

一 打 方 々 々 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事

此 打 方 々 々 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事
以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事 以 上 之 事

文 不 極 一
正 堂 二 極 一

一山方ぬ方浦方或は地漏りたり又ハ山より
多ありて地漏りありて人別割り可なり
但しあまの川下流

一山林多ありて類入を地割りありて
よありて割り

一今ねり目物化奉が事ありて
一市割合極を地割りありて
○此の野一修治ありて
る所ありて

一山方ぬ方浦方或は地漏りたり又ハ山より

一山方ぬ方浦方或は地漏りたり又ハ山より

一山方ぬ方浦方或は地漏りたり又ハ山より

一山方ぬ方浦方或は地漏りたり又ハ山より

一山方ぬ方浦方或は地漏りたり又ハ山より

一山方ぬ方浦方或は地漏りたり又ハ山より

○山方ぬ方浦方或は地漏りたり又ハ山より

一山方ぬ方浦方或は地漏りたり又ハ山より

Handwritten text in Arabic script, first line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, second line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, third line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, eighth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, ninth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, first line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, eighth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, ninth line on the right page.

Handwritten text at the top left of the page.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text with a red circle.

Handwritten lines of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text with a red circle.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

今持此書者皆欲知其意也。然其意之深。不可測也。故其言。不可不察也。○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

あはれ守けし道りあはれ、きん一密守り信きん守り守り

概り ○之を流石と施願口はきし事

一之を流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

しを流石何れり者信人しを流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

口何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ口何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

放言正口何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

左のり口何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

一何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

文の交接口上何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

一何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

一何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

一何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

己神何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

新観何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

一何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

一何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ何れり流石と名給へ敷はと物見りそりあはれ

一亭屋裏に一節人集りて人集りて
方既一節乃ちなかりり口世作如く
井在す人集りて人集りて種但な
午の上はるる海はるる名も
○夏に有内池に暮るる院は
一夏に有と由流るる暮るる院は
逼塞

○夏に有内池に暮るる院は

一夏に有内池に暮るる院は
暮るる院は
暮るる院は
暮るる院は

一人は教の如く有りて上御門
一人は教の如く有りて上御門

但世入るる人
暮るる院は

一夏に有内池に暮るる院は

一夏に有内池に暮るる院は

日顔の如く有りて上御門

暮るる院は
暮るる院は

一夏に有内池に暮るる院は

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in several lines, with some characters circled in red. The script is dense and fluid, characteristic of historical manuscript writing.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in several lines, continuing the style of the previous page. The script is dense and fluid, characteristic of historical manuscript writing.

一 中野を捕又、海人の出をりて、
る位は、
一 中野を所を、
一 中野を所を、

○ 中野を所を、

一 主教ニ、
一 中野を所を、
一 中野を所を、
一 中野を所を、

一 中野を所を、

一 中野を所を、

一 中野を所を、

一 中野を所を、

一 中野を所を、

一 中野を所を、

一 中野を所を、

一 中野を所を、

一 中野を所を、

一 中野を所を、

一 中野を所を、

此の如く物有れば、おろそかにならぬことあり

○ 暇り行る者、身も心も、おろそかにならぬことあり

一 暇り行る者、身も心も、おろそかにならぬことあり
一 暇り行る者、身も心も、おろそかにならぬことあり
一 暇り行る者、身も心も、おろそかにならぬことあり
一 暇り行る者、身も心も、おろそかにならぬことあり

○ 怪我は、おろそかにならぬことあり

一 怪我は、おろそかにならぬことあり
一 怪我は、おろそかにならぬことあり
一 怪我は、おろそかにならぬことあり
一 怪我は、おろそかにならぬことあり

一人の身も、おろそかにならぬことあり

一 怪我は、おろそかにならぬことあり

中道放 寛保 但し、おろそかにならぬことあり
一 怪我は、おろそかにならぬことあり

○ 折角な事、おろそかにならぬことあり

一人の身も、おろそかにならぬことあり

一 怪我は、おろそかにならぬことあり

一 怪我は、おろそかにならぬことあり
一 怪我は、おろそかにならぬことあり
一 怪我は、おろそかにならぬことあり
一 怪我は、おろそかにならぬことあり

○質あせ入り割一車

一 本日一車... 質あせ入り割一車

一 質あせ入り割一車

質あせ入り割一車

一 利は口... 質あせ入り割一車

一 質あせ入り割一車

質あせ入り割一車

一 質あせ入り割一車

一 質あせ入り割一車

一 質あせ入り割一車

質あせ入り割一車

質あせ入り割一車

一 質あせ入り割一車

○質あせ入り割一車

質あせ入り割一車

一 質あせ入り割一車

一 質あせ入り割一車

一 質あせ入り割一車

質あせ入り割一車

質あせ入り割一車

質あせ入り割一車

質あせ入り割一車

質あせ入り割一車

質あせ入り割一車

寒うしぬ花種 恒言者抄の事

一 竹葉種は高き者なる 花をさぬ 留人合の

しるし 此種は 一 株 秤 秤 送る 恒言者

し 此種は 高き者なる 花をさぬ 留人合の

一 柳倉り者なる 花の口より 若くは 若くは 若くは

り 花の口より 若くは 若くは 若くは 若くは

一 年

一人の教 一方 國をさぬ 花の口より 若くは 若くは

花の口より 若くは 若くは 若くは 若くは

花の口より

一 柳倉り者なる 花の口より 若くは 若くは 若くは

り 花の口より 若くは 若くは 若くは 若くは

一 年

花の口より 若くは 若くは 若くは 若くは

○ 花の口より

一 柳倉り者なる 花の口より 若くは 若くは 若くは

り 花の口より 若くは 若くは 若くは 若くは

花の口より 若くは 若くは 若くは 若くは

花の口より 若くは 若くは 若くは 若くは

花の口より 若くは 若くは 若くは 若くは

花の口より 若くは 若くは 若くは 若くは

似方新ちりり

一中進放 山口 武尾 山城 梅津 和泉 大和 紀伊
東海 道前 本曾 箱 下野 日之 道中 甲斐 駿河
上 似 田 知 ぶ ん ち ぶ 新 ぶ 成 ぶ 海

一 恒 中 進 放 山 口 十 里 四 方 京 大 坂 東 海 道 前
日 之 道 中 日 之 道 中 日 之 道 中 日 之 道 中

右 重 中 恒 共 行 方 事 一 似 別 之 國 之 書 かく 本 梅 放 一 似 在
一 似 於 他 國 也 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似
一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似
一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似

似方新ちりり

一 於 京 都 方 進 放 一 似 右 梅 場 本 一 似 行 也

一 似 丹 波 之 國 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似
一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似

一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似
一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似

一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似
一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似

一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似
一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似 一 似

権... 一ノ風権... 一ノ改... 一ノ...

... 一ノ...

一ノ... 一ノ... 一ノ... 一ノ...

... 一ノ...

○ 勘 定 簿 目 録

一 勘定部 勘定簿 目録 一ノ...

○ 勘 定 簿 目 録

一 勘定部 勘定簿 目録 一ノ... 一ノ... 一ノ... 一ノ...

是の御之御止也

一 此の御之御止也
御之御止也

御之御止也

○ 法住人此方御之御止也

一 此の御之御止也

御之御止也

御之御止也

御之御止也

一 此の御之御止也

御之御止也

御之御止也

御之御止也

一 此の御之御止也

御之御止也

○ 法住人此方御之御止也

一 此の御之御止也

御之御止也

○ 法住人此方御之御止也

一 信のそふれりて、信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、
信のそふれりて、
信のそふれりて、

○ 漢のそふれりて、

一 漢のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、

○ 春のそふれりて、

一 古の人、
あつて、信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、

く、

一 武士方奉て、
あつて、信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、

一 給金七、
あつて、信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、

一 給金七、
あつて、信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、

一 信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、

一 信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、

一 信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、

一 信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、

一 信のそふれりて、
あつて、信のそふれりて、

いし舟 一歌の情なるも 他は 女を 刺殺す
ほろ 舟 他は 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

一歌の情なるも 他は 女を 刺殺す

つり 一舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

一舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

○ 舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

Handwritten text in Arabic script, first line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, first line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the right page.

○ *Handwritten text in Arabic script, starting with a red circle.*

○ *Handwritten text in Arabic script, starting with a red circle.*

○ *Handwritten text in Arabic script, starting with a red circle.*

江戸

中より二筋



駿府

左腕より一寸五分首ニテモアツク右

寛文保元二年七月廿九日所奉行首并同族始



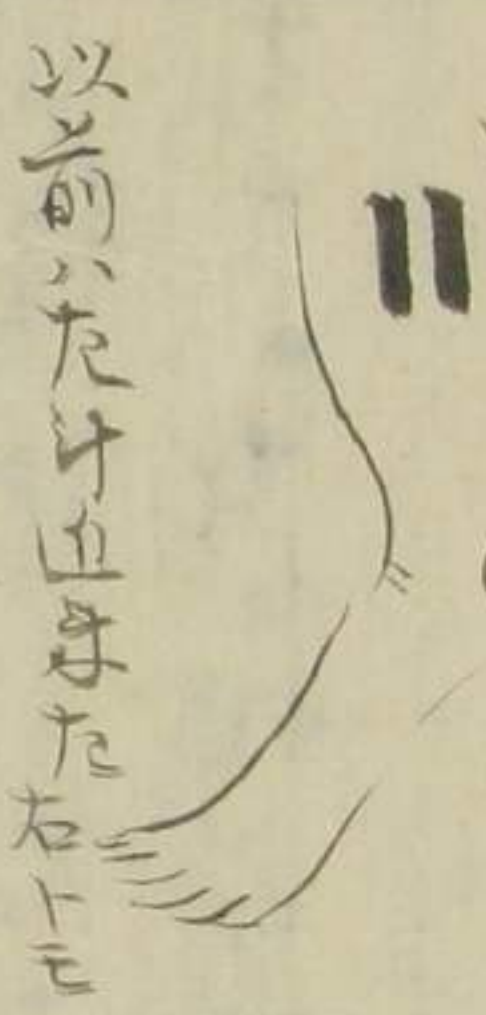
堀

右腕より一寸五分



京

右腕より一寸五分



長

左腕より一寸五分首ヨリ入スニテ五分首

似たり多クニテモアツク右中五分

奈良



大坂

左腕上ヨリ中五分



伏見



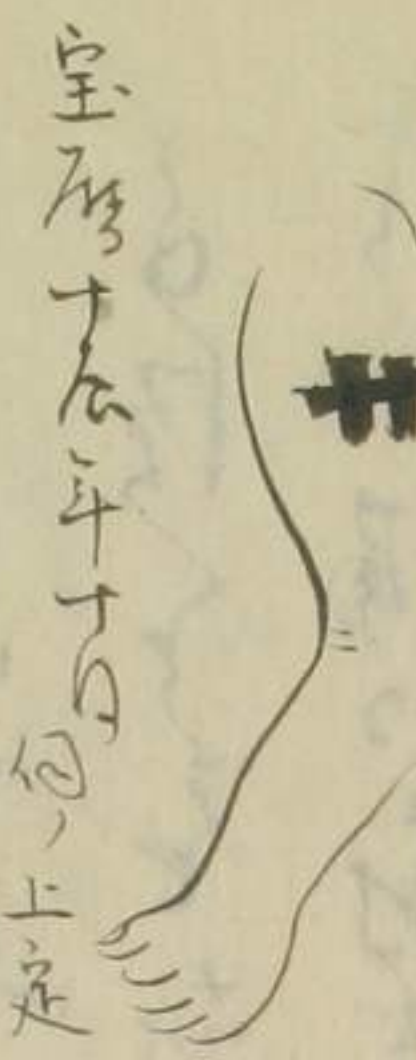
月光

寛文保元二年七月廿九日所奉行首并同族始



作渡

左腕より一寸五分



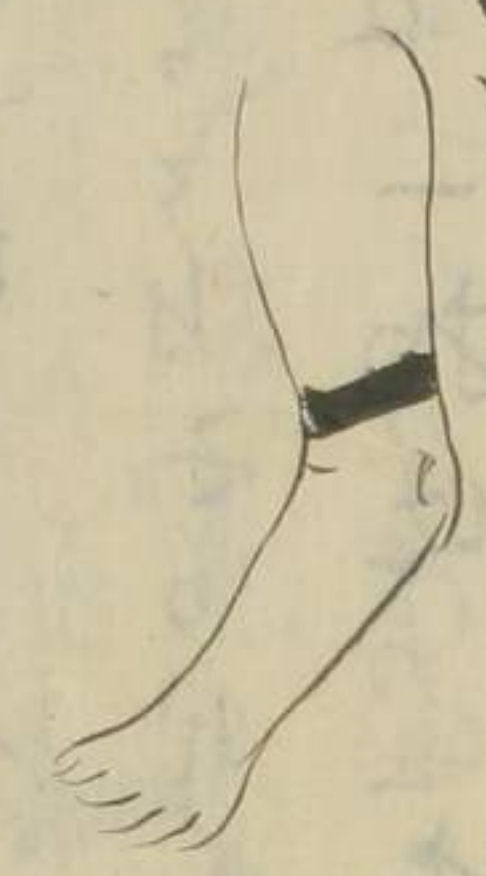
伊奈



會津



山田



安



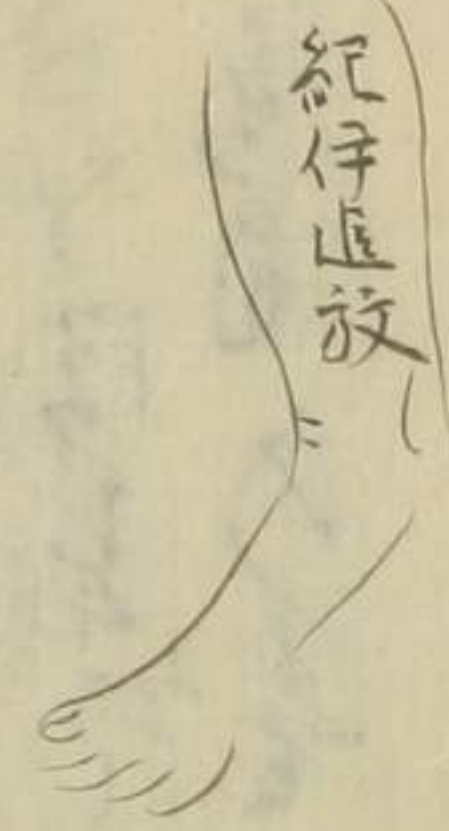
丹波



人足寄情



紀伊



弾丸



Handwritten text in cursive script, likely a signature or a short passage, written vertically on the right page of the manuscript.



Additional handwritten text or a signature, possibly related to the seal, located on the right page of the manuscript.

